

測量の日

位置目瞭然りようぜんに歓声

七宗・神渚小児童が実習

三日の「測量の日」にちなみ、国土地理院中部地方測量部と県測量設計業協会が四日、七宗町神渚小学校で記念行事を行った。ソフトボールを使った測量体験学習やクイズを通じ、子どもたちに測量技術や地図の大切さを伝えた。

(安藤恭子)

同校が創立百七年の長い歴史を持つことから訪問先に選ばれ、三年生以上の六十五人が参加した。中部地方測量部の畠山裕司次長が、神渚地区の大正時代の地図や古い上空写真など四枚のパネルを贈呈。地図記号を当てるクイズでも、児童らを楽しませた。

測量実習では、自分の歩幅からグラウンドの線の距離を測る「歩測」の後、光の波長で距離や高さをとらえる

「光波測距儀」をのぞき込み、自分が投げたソフトボールの距離を測った。同協会の会員から「手元の機械で目標物まで行かなくても

測れる」と説明を受け、歓声を上げていた。

